優しく強い子に！

http://www.minamih.net/
２１・　５・１５（土）
南ＮＥＷＳｎｏ　１９

本を読むとき

５月１４日(金)，今週５冊目の本，１月からは５６冊目の本を読み終わりました。教師の日々の実践に役立つ手引き・指南書のような本です。
一部紹介させていただきます。サッカーの指導者としても学ぶ所満載の本です。

本を読むときいつもしていることがあります。持ち歩くバックの中にはいつも２冊の本と電子辞書を入れています。本を読んでいると分からない言葉・文字がたくさん出てきます。その都度，電子辞書で調べます。言葉によっては英語では何というのだろうと調べ，スペルと発音も学びます。ノートにも書いておきます。
下記の朝日新聞の教育に文章を書いている杉田氏も分からない単語があれば辞書で調べると記述しています。“学んで問う”。この人も学問をしているんだなと思ったのです。学べば学ぶほど、私もまだまだだなとと感じるのは同じです。

ｂｙ南の安版万

朝日新聞　教育　4 月 28 日(水)

外国語の扉　わくわく感　学ぶほどに広がる

ＮＨＫ「実践ビジネス英語」元講師　杉田敏さん

…皆さんは、なぜ英語を学ぶのでしょうか。英語に限らずどんな語学でもやはり、目的意識が一番重要ではないでしょうか。海外駐在したい、ＭＢＡ（経済学修士）を取りたい……。その目標に必要な単語や表現を学んでいけばいい。でも､すぐには上達しません。**上達する人の特徴は明確な目標を持ちつつ、その目標を持ちつつ、その目標に向けて努力を続けられる人なのだと思います。　私自身も、英語を学び始めて長く経ちました。しかし、今でもわからない単語があれば辞書で意味を調べます。学べば学ぶほど、私もまだまだだなと感じます。そして、こうして学び続けてきたからこそ、米国で働くことができ、さらにはラジオ講座の講師を依頼されたのだと思います。まさに人生の可能性を広げ、扉を開けてくれたのが英語でした。ぜひ、学び続けてほしいと思います。**

『本当は大切だけど、だれも教えてくれない教師の仕事４０のこと』　ｐ１７２～１７４

大前　暁政著　明治図書

３３　子どもが子どもらしくいられるか否かは教師の構え次第

「子どもらしさ」を大切にする

子どもは年齢によって様々な姿を見せます。
低学年のころは、少々わがままを言うこともあるでしょう。友達とのケンカもよく起きます。これは仕方ない面があります。何と言っても、まだ社会性が未熟だからです。

中学年になると、仲間と行動するようになります。仲間と一緒に、教師に隠れてイタズラをすることもあります。イタズラをした張本人が、「先生、壁に落書きがありました！」「ドッジボールが屋上に入ってなくなりました！」などと言いに来るのです。
高学年になると、友人関係が固定され、絆も強固なものになります。教師や学校のルールより、友達との間にできたルールを大切にすることもあります。
これらは、誰もが通る道です。その年齢で経験すべき大切な「子どもらしさ」です。問題は。教師がこのことをどう捉え、どう対応するかです。
例えば３年生の子が「ボールが屋上に入って取れなくなった」と訴えてきたとします。こんなとき、「何やってるの！」と目くじら立てて怒る必要はありません。子どもを萎縮させるだけで、よいことは一つもありません。
それより、**すべて分かった上で，おおらかに対応した方がよい**のです。
つまり、「訴えてきた子が、ふざけていて、屋上に入れたのだろうな」と思いつつも、「それは困ったねえ」と話を聞いてやればよいのです。その上で、少しくらいたしなめないといけませんから、帰りの会の時にでも、「ドッジボールを高く蹴っていると、屋上に入ることがあります。次から気をつけましょう」と言えばよいのです。

「子どもらしさ」の中での成長

例えば、ある子は１年生のころはワガママばかりで毎日友達とケンカになっていました。
２年生になると、ケンカは少し減りましたが、やはりワガママは多く，友達は少ないままでした。本人は友達と仲良くしたいのですが、まわりがその子を嫌がるのです。
３年生になって、ようやく友達の気持ちを考えるようになりました。友達が病気で休むと連絡帳を届けて優しい言葉をかけたり、友達がいじめられると我が事のように怒ったりするようになりました。友達は増え、リーダーにも推薦されるようになりました。
４年生になると、もうすっかりリーダーとしてまわりが認めるようになりました。毎日、多くの友達を引き連れ、休み時間に外で遊ぶようになりました。
さて、これは一つの例ですが、子どもの成長の過程をよく示しています。
つまり、**子どもはその年齢でしか経験できないことを経験し、そして、その子らしい成長の道を歩んでいる**ということです。低学年のころワガママだったからこそ、友達の気持ちを考えるのが大切だと実感し、中学年になって生かすことができたのです。
このように、子どもは子どもらしく過ごす中で、様々なことを学び、成長しています。しかも、それぞれの子どもには、それぞれの「子どもらしい歩み」があるのです。
低学年のころワガママ放題だったのも、その子の成長のために必要な歩みだったのです。
反対に、小さなうちから大人びた行動をとらせたり、ルールでがんじがらめにしたりすると、どこかで成長の弊害になることを考えなくてはいけません。

子どもは大人があっと驚くような変容をします。
南の４５年の歴史の中でも様々な子がいました。サッカーを共に楽しみ，共に過ごした日々の実感は“子どもは変容する”です。教室でも同じでした。
子どもと共に大人も変容し，成長するのです。共に楽しみましょう！！

ｂｙ南の安版万